

古代山陽道

影面の道

か
げ
と
も

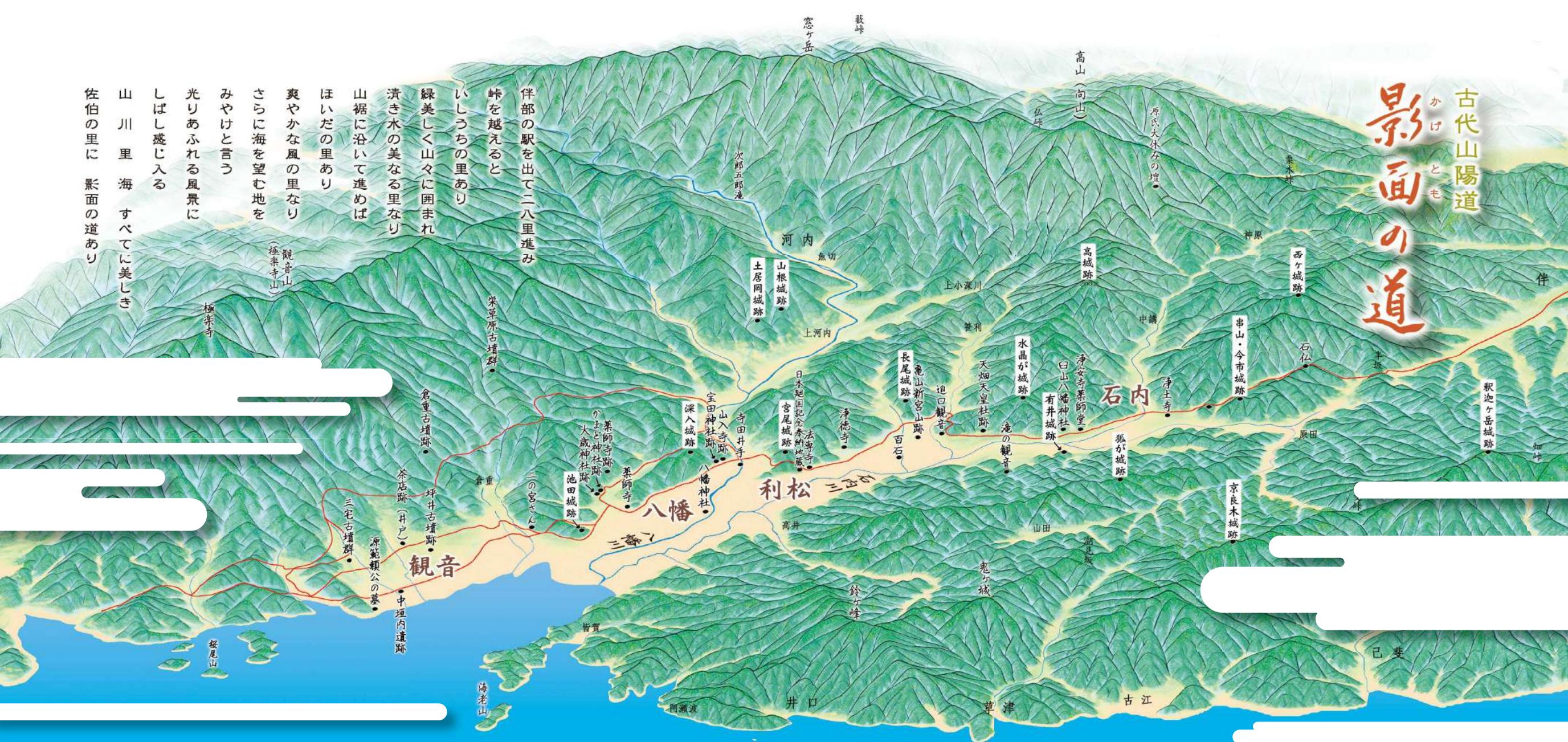
佐伯区散策マップ

厳島



古代山陽道 影面の道

かげ
と
みち



今から1200年前、石内から利松、八幡、觀音地区に古代山陽道「影面の道」が通っていました。この官道沿いには長い歴史の変遷の中で寺社や山城等多くの文化遺産ができ、地域の歴史と文化を刻んで今日に至っています。

これらの遺産は地域文化が発展する基礎となるものです。しかし、開発に伴い古道の面影が無くなりつつあることや、「影面の道」を案内できる人も少なくなっていることなどから、官道沿いの6公民館とその地域の人々が集まり、地域の歴史とその魅力を再発見できるように「影面の道」をベルト地帯として、石内から三宅までの歴史散策マップを作成しました。

この散策マップを手に、まずは歩いてもらい郷土の歴史と文化を探り、次世代への継承と新しい地域文化の発展に繋がれば幸いです。

【コースの設定にあたって】

小誌で示しているコースは、石内から三宅までの全線コースが地図上に紹介されていることから、広島市教育委員会発行の「古路・古道調査報告」を参考に示しています。

もくじ

古代山陽道「影面の道」とは	18
畿内の宮都へ通じる道	3
「影面の道」とは	4
五百市のはとんどは	6
海だつた	5
影面の道を通った人と物	6
時代年表	7
佐伯区全体マップ	7
八幡のほど	5
影面の道を通った人と物	6
地図の見方・楽しみ方	8
石内・利松地区	9
八幡地区	19
地域の行事	24
観音地区	25
アクセスガイド	32
公民館ガイド	34
佐伯の里に 影面の道あり	36

上の鳥瞰図は、当時の海岸線を基に作成しています。

図示されている「影面の道」は、本書で紹介しているコースで、散策コースの紹介スポットの一部を紹介しています。

鳥瞰図制作は、織田雅己さん(佐伯区皆賀)。

佐伯の里に 影面の道あり

光りあふれる風景に
しばし盛じ入る
山川里 海 すべてに美しき

緑美しく山々に囲まれ
峠を越えると
いしうちの里あり
伴部の駅を出て二八里進み
山裾に沿いて進めば
ほいだの里あり
爽やかな風の里なり
さらには海を望む地を
みやけと言う

古代山陽道「影面の道」



広島県内の駅家跡（『広島県史』より）

**謎が残る
大町駅の所在地とは**

平安時代初期の『延喜式（えんぎしき）』に、安芸の国には13の駅家が設置されていたと記されています。地形の特性から、山が海岸まで迫つており、海岸部を避け内陸の小盆地や河谷を結んで進と呼ばれていました。佐伯区では石内、利松、八幡、観音地区をほぼ直線状に通っていました。

大町駅の所在については異説があり、はつきりしませんが、佐伯区利松付近が東の伴部駅と西の種籠駅のほぼ中間にあることから、この辺りにあつたとも言われています。また、佐伯区

平安時代初期の『延喜式（えんぎしき）』に、安芸の国には13の駅家が設置されていたと記されています。地形の特性から、山が海岸まで迫つており、海岸部を避け内陸の小盆地や河谷を結んで進と呼ばれていました。佐伯区では石内、利松、八幡、観音地区をほぼ直線状に通っていました。

古代の人々の旅や、国家より地方へ課せられた調庸の宮都への輸送の苦労が大きかつたことが伝えられていますが、安芸の国より宮都まで要する日数は『延喜式（えんぎしき）』によると、上りは陸路で14日、下りは6日、海路では

上段は下岡田遺跡の軒丸瓦(左)と軒平瓦(右)
下段は中垣内遺跡の軒丸瓦(左)と軒平瓦(右)

陸路で14日の旅

古代の人々の旅や、国家より地方へ課せられた調庸の宮都への輸送の苦労が大きかつたことが伝えられていますが、安芸の国より宮都まで要する日数は『延喜式（えんぎしき）』によると、上りは陸

路で14日、下りは6日、海路では往復18日と記されています。しかし、次第に律令制度が衰退するとともに瀬戸内海を利用する海運が発達し、物資輸送はもちろん官吏、公使の往来も海路をとるようになり、陸路による駅制は次第に崩壊していき、平安末期には無くなつたと言われています。

**「影面の道」とは
どんな道？**

「影面（かげとも）の道」の名前の由来は、古代日本では、太陽の出没方向にちなんで東西を日縦

（ひたて）、それに直行する南北方向を日横（ひよこ）と呼んでいました。そして山稜の南斜面を影面（かげとも）、北斜面を背面（そとも）と呼び、日縦である山陽道を「影面の道」、山陰道を「背面の道」と呼ばれていました。佐伯区では

官道は『令』の規定によると、大路、中路、小路に区分され、大陸交易の玄関にあたる大宰府と宮都を結ぶ「山陽道」は最も重要な幹線道路であり、唯一、大路に指定されました。山陽道のみが大路になつたのは、

大路の道幅は馬の通行が可能な1メートルと推定されていますが、高槻市の発掘調査では幅12mの所もあります。

官道は短い時間で宮都と目的地を結ぶことが最大の使命で、駅路の構築に耐えうる範囲で最短コー

**大宰府と宮都を結ぶ
最重要大路**

これらの官道は中央集権政治のもとで、官吏、公使の往来、宮都からの政令伝達、地方からの連絡、報告、庶民の調庸（ちょうよう）の輸送などに利用されました。

官道には30里（約16km）ごとに駅家（うまや）が置かれ、各駅家には早馬（はゆま）が用意されました。全国いつせいに官府を下すと馬をつけないで政令を伝達していました。安芸の国では、地形が山がちとなり、陸上交通の制約でこれらの中馬をつないで政令を伝達していました。

これらの官道は中央集権政治のもとで、官吏、公使の往来、宮都からの政令伝達、地方からの連絡、報告、庶民の調庸（ちょうよう）の輸送などに利用されました。

北九州地方が古くから外交や国防などの重要な地で、大宰府が律令政府ただ一つの支庁であつたことから、宮都と大宰府を結ぶ官道が最も重要な路となりました。

官道には30里（約16km）ごとに駅家（うまや）が置かれ、各駅家には早馬（はゆま）が用意されました。全国いつせいに官府を下すと馬をつけないで政令を伝達していました。安芸の国では、地形が山がちとなり、陸上交通の制約でこれらの中馬をつないで政令を伝達していました。

駅家（うまや）が置かれ、各駅家には早馬（はゆま）が用意されました。全国いつせいに官府を下すと馬をつけないで政令を伝達していました。安芸の国では、地形が山がちとなり、陸上交通の制約でこれらの中馬をつないで政令を伝達していました。

駅家（うまや）が置かれ、各駅家には早馬（はゆま）が用意されました。全国いつせいに官府を下すと馬をつけないで政令を伝達していました。安芸の国では、地形が山がちとなり、陸上交通の制約でこれらの中馬をつないで政令を伝達していました。



駅使のシンボルは
駅鉢(えきばい)

駅鉢(隠岐の玉若酢命神社所蔵)

駅使は、そのシンボルとして「駅鉢(えきばい)」を必ず携行しなければならない決まりでした。

駅使は各駅で、駅鉢を示すことで馬を取り換えることができました。その馬を何頭使えるかは、位の高さによって決まっていました。

重労働だった税の運搬

公民が負担する税のうち、調と庸は公民が都まで運ばなければなりませんでした。この運搬する人を運脚(うんきやく)と言い、都から離れた地方に住む者にとっては、非常に大きな負担でした。

地方によっては、都まで片道50日以上かかるにもかかわらず、公民は官道沿いの駅家を利用できず、しかも、食料は自弁でしたので、帰路に餓死する者も多かったと言われています。

地方から都までの運脚日数(平均)

安芸(広島)	14日
土佐(高知)	35日
陸奥(福島・宮城・岩手)	50日

駅使は各駅で、駅鉢を示すことによって馬を取り換えることができました。その馬を何頭使えるかは、位の高さによって決まっていました。

宮都と大宰府を結ぶ「影面の道」では、駅使(えきし)と言われる公式の使者の他、九州へ防人(さきもり)として行く人たち、都の警備をする衛士(えじ)として赴く人々も通りました。また、中央政府への税として、地域の特産品や織維製品の調(ちょう)、宮都での労役の代わりに納める布など

「影面の道」を通った人や物

の庸(よう)を運んでいました。また、大宰府や九州地方から宮都へ行く際に「影面の道」を通り、当地に滞在したようです。また、その従者を基にした昔話『ふたつなりの梅』が現在に語り継がれています。

菅原道真が通った道

石内地区には菅原道真が大宰府へ行く際に「影面の道」を通り、当地に滞在したようです。また、その従者を基にした昔話『ふたつなりの梅』が現在に語り継がれています。

五日市のほとんどは
海だった

「影面の道」が通っていた平安時代の9世紀頃までは、五日市の平野部のほとんどは海でした。弥生時代(2世紀頃)には、八幡地区に古代の遺跡や山麓に沿う地区に多くの生活の跡が多く見られ、五日市地区や八幡地区の平野一帯に観音地区、八幡地区、石内地区の人々の生活の跡が多く見られます。それは、観音地区、八幡地区、石内地区の日々の生活の跡が多く見られ、五日市地区や八幡地区の平野一帯に観音地区、八幡地区、石内地区の日々の生活の跡が多く見られます。それは、

海を望みながらの旅

は古代遺跡が見られないことからも推測できます。

【大和・平安時代の海岸線】(『五日市町誌』より)



観音地区、八幡地区、石内地区の日々の生活の跡が多く見られます。それは、観音地区、八幡地区、石内地区の日々の生活の跡が多く見られます。それは、観音地区、八幡地区、石内地区の日々の生活の跡が多く見られます。それは、観音地区、八幡地区、石内地区の日々の生活の跡が多く見られます。それは、観音地区、八幡地区、石内地区の日々の生活の跡が多く見られます。それは、観音地区、八幡地区、石内地区の日々の生活の跡が多く見られます。それは、

辺りまで、江戸時代になって今の道は、海岸線を通っていたと思われ、瀬戸内海を眺めながらの旅となっていました。

平安時代末期には西広島バイパスとなり五日市平野が開かれ、人々の暮らしの場となっていました。

平安時代末期には西広島バイパスとなり五日市平野が開かれ、人々の暮らしの場となっていました。

平安時代末期には西広島バイパスとなり五日市平野が開かれ、人々の暮らしの場となっていました。

時代別年表

時代	古代	大和	平安	鎌倉	室町	安土・桃山	江戸	明治	大正	昭和	平成
今から何年前		1218	820	674	490	439		144	100	86	23
西暦(年号)	1405	1232	1012	791	712	615	411	396	393	362	57
年代不明	六〇七 (推古二五)	七〇〇 (天平十九)	八〇〇 (延喜二九)	九〇三 (承久二)	一〇〇〇 (永仁一)	一一〇〇 (承久二)	一二〇〇 (永仁五)	一六〇一 (慶長六)	一六一〇 (元和五)	一六二六 (正保二)	一九五
佐伯区の年表 (地区別の沿革)	〔石内〕	●石内村と称す	●発生(ほいだい)集落	●和田村高井	●寺田村発生	●穂井田村(ほいだい)とある	●寺田村(とある)なる	●和田村(とある)なる	●寺地村(とある)なる	●上村(じょうぼん)改名(かめい)	●五日市町となる
まちのうつり変わり	〔八幡〕	●発生(ほいだい)集落	●みやげ集落	●倉重村発生	●仙洞(せんとう)発生	●坂田村(さかたん)発生	●坪井村(つぼいん)発生	●坂田村(とある)なる	●八代村(やしろむら)発生	●八代村(やしろむら)なる	●千同村(せんどうむら)なる
	〔観音〕	●白川(しらかわ)ありに集落	●河内郷(こう)に集落	●河内郷(こう)に集落	●手牌(てふ)の浜(はま)に分離(ぶり)	●手牌(てふ)の浜(はま)に分離(ぶり)	●河内村(こうにむら)に分离(ぶり)	●河内村(こうにむら)に分离(ぶり)	●河内村(こうにむら)に分离(ぶり)	●河内村(こうにむら)なる	●千同村(せんどうむら)なる
	〔内五市〕	●白川(しらかわ)ありに集落	●河内郷(こう)に集落	●白川(しらかわ)と河内郷(こう)に集落	●手牌(てふ)の浜(はま)に分離(ぶり)	●手牌(てふ)の浜(はま)に分離(ぶり)	●河内村(こうにむら)に分离(ぶり)	●河内村(こうにむら)に分离(ぶり)	●河内村(こうにむら)に分离(ぶり)	●河内村(こうにむら)なる	●河内村(こうにむら)なる
社会のできごと	●五八九	●六〇七	●六八五	●七九四	●九〇一	●菅原道真(すがはらのみこと)大宰府へ京都に都を移す	●二二九二	●一五四六年(いよいにねん)鎌倉幕府開く	●一六〇三	●江戸幕府開く	●一八五三
	●隋か中國を統(とう)め	●小野妹子(おのめし)隋(さい)に渡る	●安芸の守(もり)	●室町幕府(むかわく)開く	●平清盛(ひらきよし)	●應仁の乱(おうじんのあん)始まる	●一四六七	●應仁の乱(おうじんのあん)始まる	●一八六八年(一八六八年)	●明治維新(めいじいしん)	●一八六八年(一八六八年)
	●隋か中國を統(とう)め	●小野妹子(おのめし)隋(さい)に渡る	●安芸の守(もり)	●室町幕府(むかわく)開く	●承久の乱(じょうくのあん)	●嚴島の合戦(げんとうのあっせん)	●一三三八年(一三三八年)	●関ケ原合戦(せきがはらあっせん)	●一八五三年(一八五三年)	●ベリ、浦賀(うらが)に来る	●一九四九年(一九四九年)
										●明治維新(めいじいしん)	●一九四四年(一九四四年)
										●日露戦争(じゆせんそう)	●一九四五五年(一九四五五年)
										●第一次世界大戦(だいいつじせん)	●一九一四年(一九一四年)
										●広島・長崎に原爆(げんばく)	●一九四五五年(一九四五五年)
										●太洋戦争(たいようせんそう)	●一九四五五年(一九四五五年)
										●山陽新幹線開通(さんようしんかんせんかいとう)	●一九七八五年(一九七八五年)
										●山陽自動車道開通(さんようじどうしゃどうかいとう)	●一九九六年(一九九六年)
										●石内バイパス開通(いのうちバイパスかいとう)	●一九九七年(一九九七年)

(『五日市町誌』より)【年表作成/2012年(平成24年)】

●「影面の道」の当時をしのびながら歩いてみましょう。

●起点となるスポットから、番号順に辿って歩くのがおススメです。

●紹介スポットは個人の敷地内にあるものもあります。見学される際は声をおかけください。

●体調や天候、交通事故などに気をつけて安全に歩きましょう。

楽しい歩き方

観音 25
八幡 19
石内・利松 9
石内 32
利松 24
八幡 18

地図の見方

●本書では、佐伯区内の「影面の道」を歩く散策コースを紹介しています。そして、その散策コースを歩きながら当時に関係の近い史跡などを掲載しました。

●コースは「石内・利松」「八幡」「観音」の3地区に分け、それぞれの地区を色で区分けしています。



地区全図

その地区の中で、どの辺りを表示しているのかを表しています。
地図はすべて、上が北になっています。

地図の作成にあたって

- 本書の地図は、平成24年(2012)の地図情報を基にして作成しています。
- 諸事情により、内容が変更になっていることがあります。ご了承ください。
- 施設などをご利用の際は、休館日などを事前にお調べください。

一地図内の線一

- 影面の道散策コース**
影面の道をしのびながら歩く道です。中には、車が通れない道もあります。
- 影面の道**
本書で紹介する「影面の道」です。
実線は、現在の道と合っている道。
破線は、現在では不明な道を表しています。



寺社や山城に古代の息吹を感じながらのんびり歩こう

Aコースの周辺は団地開発や高速道路で分断されるなど、影面の道の面影が無くなっていますが、唯一、半坂の山道にある石仏や石内小学校裏の道はその面影が残り、昔の旅人が思い浮かばれ古代のロマンを感じられます。

Bコースは石内の長い歴史を物語る神社や山城跡があり、特に783年に祭られたという白山八幡神社、その正面の有井城跡、神社西の水晶ヶ城跡、その山裾には旅の安全を祈願した観音様など、古代からの長い歴史を感じるコースです。

後半は県道から離れ、自然が多く残っている石内の田園風景の中を散策します。

Cコースは、利松地区の住宅地を歩きます。散策コースから外れますが、宮尾城跡からは雄大な景観が楽しめます。



しまつ いしうち・とし 石内・利松

里山の風情が残る「まほろばの里」
田園風景に当時の面影を見る



時代は石道から石内へ 山城が点在する古代の要所

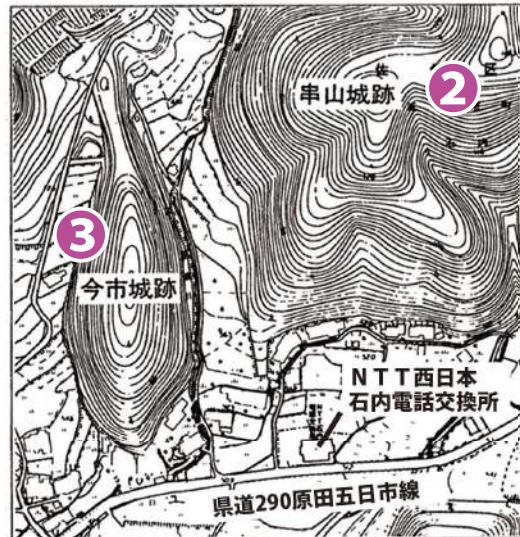
石内は古くは石道と呼ばれ、2~3世紀頃に亀山（新宮山）を中心にして稻作が行われていましたが、8世紀頃には石内の北部である半坂あたりまで広がり、同じ頃に白山八幡神社が祭られるなど、石道村の輪郭が整ってきました。江戸時代の初めに石内村と改称されましたが、石道の名は約850年間続きました。

半坂から湯戸まで今の県道とほぼ並行し山裾に沿って「影面の道」が通り、その官道沿いには多くの神社や仏寺、山城が存在し、村の歴史に様々な影響を及ぼしています。鎌倉時代には嚴島神社の社領の一部となり、室町時代に入ると嚴島神主家、銀山城の武田氏、安芸の国に進出しようと大内氏の3つの勢力が競い合ったなど、多くの山城跡があるようになります。利松地区も、鎌倉時代に嚴島神社の社領になりましたが、嚴島神社と深い関わりのある地域で、古くから集落があったと思われます。

2 3 串山城跡・今市城跡

くしやまじょうあと・いまいちじょうあと
巣島まで一望、佐西郡平氏東端の守り城

石内の奥の石内川右岸にあり、標高100mの丘からは石内の谷だけでなく八幡や遠く宮島まで一望できます。大塚、沼田への出入口をおさえる要所と言える戦略的に重要な位置にあった両城は、源平時代に平氏の勢力の強かった佐西郡(旧佐伯郡)の東端の守りとして、古代山陽道の扇迫谷と、その頃開通した半坂・原田平岩道の間に作られた平家の城であったと言われています。開発によりその跡形はありませんが、今も見晴らしあはれ、当時がしのばれます。

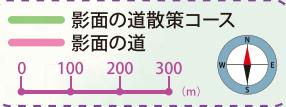


1 石仏

いしぶとけ
供えられる野の花が古道のおもかげを伝えるようだ
半坂から平岩に至る五又路の峠にある自然石。形が仏様に似ているので石仏と名付けられました。今もなお野の花が供えられ古道の面影がしのばれます。

わたしのオススメ

静かな山道を登った峠に石仏がたたずんでいます。今は訪れる人は少ないですが静かな古道の面影が残っています。赤いよだれかけをかければお地蔵さんに、手拭いを糸に掛けければ姉さん風にと、訪れる人の想いによって見え方が違うかも!石内のパワースポットになるかも!40年前、石内に嫁いで来て、当時、いろいろと連れて歩いてもらった場所で、今でも心に残っている所です。(加古川照子)



Aコース

- A** 広域公園前駅 (アストラムライン)
約1.3km・約25分
石仏
約1.2km・約20分
串山城跡・今市城跡
約700m・約15分
浄土寺
約600m・約10分
石内公民館

歩く距離
約3.8km
歩く時間
約1時間30分

Aコース

半坂から石内公民館までのコースです。広域公園前駅から団地の中を抜け、高速道路横を南に進むと半坂横断1号橋横の三叉路に至ります。さらに直進し山道を進むと古道の面影を残している尾根に自然石の石仏が立っています。元の道に戻り高速道に沿って南下すると石内流通第一公園に至り、この辺りが串山城跡、今市城跡です。道路端からは石内だけなく宮島までが一望でき、官道沿いで要衝の地であったことが伺えます。階段を下り串山城跡を左に見ながら進むと、県道沿いに浄土寺鐘楼が見えてきます。浄土寺横を県道から分かれて進み、梶毛川を渡ると石内小学校裏に至ります。小学校裏の山裾の道は「影面の道」の旅人の姿がしのばれます。

4 淨土寺

阿弥陀仏が見守る石内の菩提寺

本尊は阿弥陀如来。元は真言宗で平岩山教専坊と称していましたが、石道城主麻生右衛門鎮里が菩提寺とし、その子の於菟丸(おぎまる)が住職となり、真宗に改宗(1542年)し平岩山浄土寺に改めました。



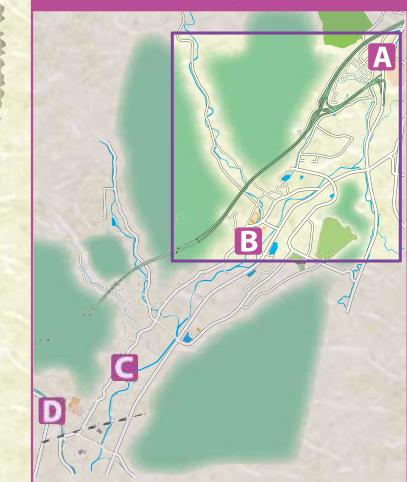
源氏大休みの壇

げんじょおやすみのだん
平家討伐のおり、源範頼が滞在
石内の人たちと交流も

源平合戦の時、源範頼(源頼朝の弟)が平家を追って九州へ向かう途中で数日、陣を敷き、休んだと言われています。石内には、源範頼に縁の地名や社が残っています。



石内・利松全図



6 浄安寺薬師堂

旅人の疲れを癒す慈悲の眼差し
寄木作りの本尊は重要文化財

万正山門前院浄安寺と言い、本尊の薬師如来は平安時代後期に製作されたものと言われ、寄木作りの仏像(広島市重要文化財)です。お堂の前を「影面の道」が通っていたと言われ、長旅の人や地元の人々が旅の平安や病気回復を祈るために建立されたと伝えられています。やさしさにあふれた薬師如来は古くから、地元の上中地区の人々により大切に守られています。

「オンコロコロ、センダリ、マトウギンワカ」とお経を唱えてみましょう。お願い事が叶うかも。



5 瑠璃光水跡

薬師如来を洗い清めた
瑠璃色に光り輝く水の池

盗まれ放置されていた浄安寺薬師如来を村人が洗い清めたと伝えられます。当時は瑠璃色をしていましたと言われ、眼病を治すことができたという伝説があります。

戦のみならず、
東西の交流も盛んな中世の城
ありいじょうあと

有井城跡

南北朝期に築城された中世の山城。
山頂からは、石内から八幡までが一望でき、正面には臼山八幡神社の鳥居にあたり、古代山陽道の動きを見張る好立地にありました。

水晶ヶ城跡

村で最も要害の地にあった山城。
登ってみると本丸、二の丸、三の丸、出丸、また、約1.5kmに渡る城の用水としての水路道も残っています。



8 天畠天皇社跡

宮島を望める丘には
菅原道真公が滞在

下沖・天畠の谷の奥にあり、宇多天皇を祀っています。菅原道真公が九州大宰府に左遷される時に泊ったとも言われ、高台からは宮島が一望できます。

9 迫口観音

今も願いは厄除け祈願

お堂に觀世音菩薩が安置されています。昭和25年頃までは縁日にお堂裏の広場で子供相撲大会が行われていました。今も厄除けとして拝まれ迫口観音祭りが行われています。

7 白山八幡神社

鎮守の大木群の中に
たたずむ社は
兵どもが戦勝祈願

初めは小社でしたが、783年に宇佐八幡の祭神の御靈を分けもらって創建されたと伝えられます。村民の尊敬と祭神が武神であるため、源平合戦の際には源氏方がこの神社を信仰、靈験があったそうです。戦国時代には大内方の麻生右衛門が社殿を造営寄進し、また毛利元就は厳島合戦の折に戦勝祈願をするなど、兵乱の際、将兵の信仰により次第に立派になってきました。明治41年、石内村内にあった多くの神社を臼山八幡に合祀し、石内村の村社となりました。(33ページで「秋祭り」を紹介)



わたしのオススメ

「影面の道」の面影が残る石内小学校裏の道から浄安寺薬師堂を通り、正面に有井城を望む臼山八幡神社を経て、水晶が城跡下に至るコースは、石内の長い歴史と古代のロマンを感じさせるコースです。特に小学校裏の道は車の通行も少なく、木漏れ日のさす道で昔の旅人の姿が思い浮かびます。また、臼山八幡神社は大樹の中、立派な神社が建っており、静かなたたずまいでの歴史に浸れる場所です。(道添富造)

Bコース

石内公民館

約200m・約5分

瑠璃光水跡

約200m・約5分

浄安寺薬師堂

約300m・約5分

臼山八幡神社

約700m・約15分

天畠天皇社跡

約500m・約10分

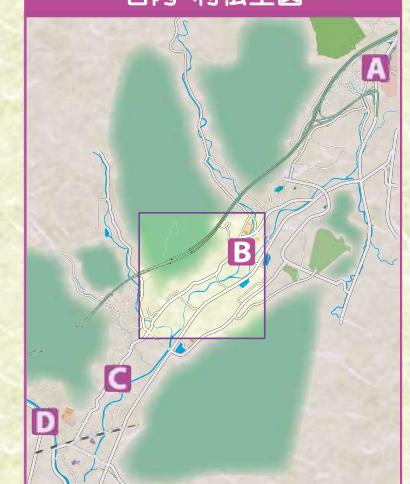
迫口観音

歩く距離
約1.9km

歩く時間
約40分

地図記号 / 寺院 神社 小学校 中学校 コンビニ トイレ 病院 銀行 ガソリンスタンド 郵便局 バス停

石内・利松全図



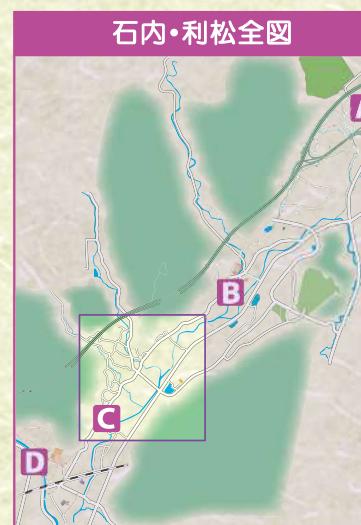
Bコース 慈悲深い薬師様に見守られ歴戦の道をたどる



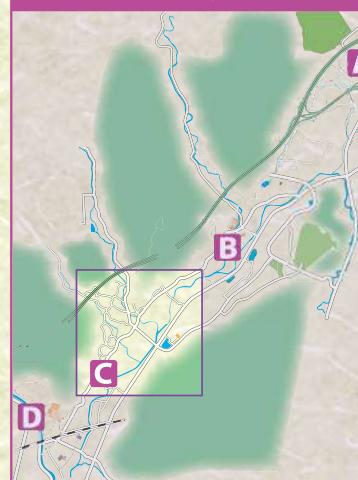
石内公民館から迫口観音までのコースです。このコースには、瑠璃色の池があったという瑠璃光水跡、旅人や地元の人の安全や病気回復を願うために建立された浄安寺薬師堂、長い歴史と時を感じさせる大木群の中に社殿が建つ臼山八幡神社、その正面に位置する有井城跡、西には水晶ヶ城跡と、近接して多くの寺社や山城跡があります。時間が許せば水晶ヶ城跡に登つて見るのも良いでしょう。有井城跡は道路工事のため半分が削られていましたが、石内公民館に発掘調査時の航空写真があり、当時の様子がしのばれます。県道沿いを南下し、しばらく歩くと尾根の先端に迫口観音が見えます。

Bコース 古の情緒が残る田園風景 今も昔も変わらぬ道

県道から離れ、山裾を通って利松地区の境までに至るコースです。このコースには多くの自然が残り、車の騒音から離れ田園地帯の中を古代人に思いを馳せながらゆっくりと歩けると思います。コースは見晴らしの良い高台の迫口観音から山道の中を進むと川沿いの道に出ます。少し北上して川を渡り山裾沿いに平地を迂回しながら南下します。途中、古道そばに水の分配を村人が知恵を出して作った枠井手があります。ちょっとと覗いてみましょう。家々の間の道を抜けながら進んでいくと県道に古道が合流する手前の山裾に桜の大木が目を引く浄徳寺に至ります。ここで少し休んで、利松地区に向かいましょう。



石内・利松全図



10 枠井手

水路に流れる水量を田畠の面積に応じて分水

下流の地域で水の取合いが生じるため、作付面積に応じて水の流れる量を7対3に分水するように作った井手です。



11 浄徳寺

盗難にあいながら、地元の願いで復興した観世音菩薩

本尊は觀世音菩薩。旧本尊は行基の作と伝えられていきましたが、明治時代に盗難にあい、現在の本尊は地元の広田柳平氏の作で京都にて入仏されました。

古代の海岸線の名残り

百石

古くは海が入り込み、向いの地との間に数多くの飛び石があり、それを渡って行き来していました。現在は西法寺川改修時に出た石を堤防に並べられています。



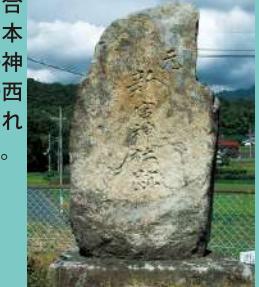
戦国時代の山城跡

ながおじょうあと
長尾城跡
武田氏家臣長尾氏の居城。頂上の本丸から北の尾根上は約500m²の平坦地でしたが、今は山陽自動車道が通っています。その東西南の三方は急斜面になっています。



地元の氏神さま

かめやましんぐうさんあと
亀山新宮山跡
笹利、上沖、下沖地区の氏神様である新宮神社がありました。明治41年、白山八幡神社に合祀され、本殿はその神社本殿の西に移築されています。



浄徳寺境内に咲く一本桜 花は枝にお餅をつけたよう

モチヅキザクラ

この桜の花は、枝の先端部で球形に咲き、下から見上げると餅のように見えることから、この名前が付いたそうです。広島県内で確認されているのは、この1本だけです。
広島市の保存樹(樹高18.3m、幹周り3.25m)。



枝に餅が付いたように咲きます

わたしのオススメ

宮尾城跡では、古くから地元住民が春4月3日、山頂や中腹の広場で手作りの重箱弁当やニッケイシ(肉桂水)を持って集まり、花見を催し、団らんや憩いの場として楽しんできました。

近年は雑木が繁茂し、荒れた状態になっていましたが、地元の人たちが登山道や山頂の雑木を伐採し、麓から10分程で登れるようになりました。頂上からの眺めは格別です。古代人の生活、旅人のありし日の姿を想い起きてみませんか。(古元隆生)

地元領主の館跡

みやおじょうあと

宮尾城跡

「瀧城(たきじょう)」「滝尾ノ城」とも呼ばれ、利松孫右衛門(源頼朝の弟の範頼に仕えた家臣)の所居であったと伝えられています。また、近隣の城と狼煙を交換する用地であったと伝えられています。現在、三和中学校の北側の高さ約85mの小高い山が、城跡として残っています。八幡目付近には、鉢巻状に平らな部分があり、以前は、井戸らしき跡も見られました。昭和13年ころに、ひどい干ばつに見舞われた利松村民は、多くの木材を山頂に運んで大火を焚き、雨乞いをしたそうです。



宮尾城跡

12 法専寺

親鸞上人像に見守られ

元は禪宗であったが、永禄2年(1559)に宗円禪師が浄土真宗に帰依して改宗。寛永4年(1627)に本願寺から寺号を受け龜石山法専寺になりました。同寺には「ものをいわれた黒仏」があります。



13 日本国記念奉納地蔵

諸国巡礼の記念碑

1749年2月4日に、利松村の僧教誉智真が、実譽淨真大徳を目指して諸国を廻國巡礼し、その記念として奉納した地蔵です。



樹齢200年以上の老松

しょうかくじ

正覚寺

延徳3年(1491)天台宗から浄土真宗に改宗。明治13年(1880)、廢仏毀釈(はいぶつきしゃく)運動の混乱の中、新庄村(現在の西区三滝)より本堂を現在の地に移築されました。

地元領主が信仰した祠

しんぐうじんじゃあと

新宮神社跡

利松孫右衛門が宮尾城麓に小祠を祀り、熊野新宮神社御前と呼んでいました。その後、途絶えましたが文明年中(1469~1489)に利松村の住民が小祠を建て氏神を祀りました。利松には、新宮神社の摂社として古保理神社もありました。

「影面の道」を離れ、住宅地を歩く
宮尾城跡からの眺めは絶景

C「ースは下湯戸バス停から県道を南下し、

法専寺の前を通り過ぎると右手前方に山道があり、少し入ると法専寺の裏山辺りに「日本廻国記念奉納地蔵」がひつそりと立っています。古道はここから三和中学校グラウンド側の敷地に沿って西に進みます。四差路の交叉点を左折すると三和橋に至ります。三和中学校裏の小高い山が宮尾城跡ですが、山頂まで10分程で登れ、山頂からはふもとの利松地区はもとより、遠くは宮島や瀬戸内海の島々の眺めを楽しむことができます。

「影面の道」を離れ、住宅地を歩く
宮尾城跡からの眺めは絶景

利松(としまつ)地区の丘陵部には、縄文時代・弥生時代の遺跡がいくつか存在し、すでにこの時代には人々の生活が営まれていたようです。

「利松」の地名は、古くは鎌倉時代の嚴島神社の社領に関する古文書に見ることができます。但し、「延喜式」に見られる「大町駅」が利松付近に置かれていたと考えられており、また、「大町」とは、地方の中心となる集落を意味しますが、「延喜式」に見られる「大町駅」が利松付近に置かれていたことから、佐伯郡の郡衙(ぐんが)れていることから、佐伯郡の郡衙(ぐんが)れています。郡役所(ぐんが)があつたとも推定されています。

Cコース 厳島神社の社領として
古くから栄えた地

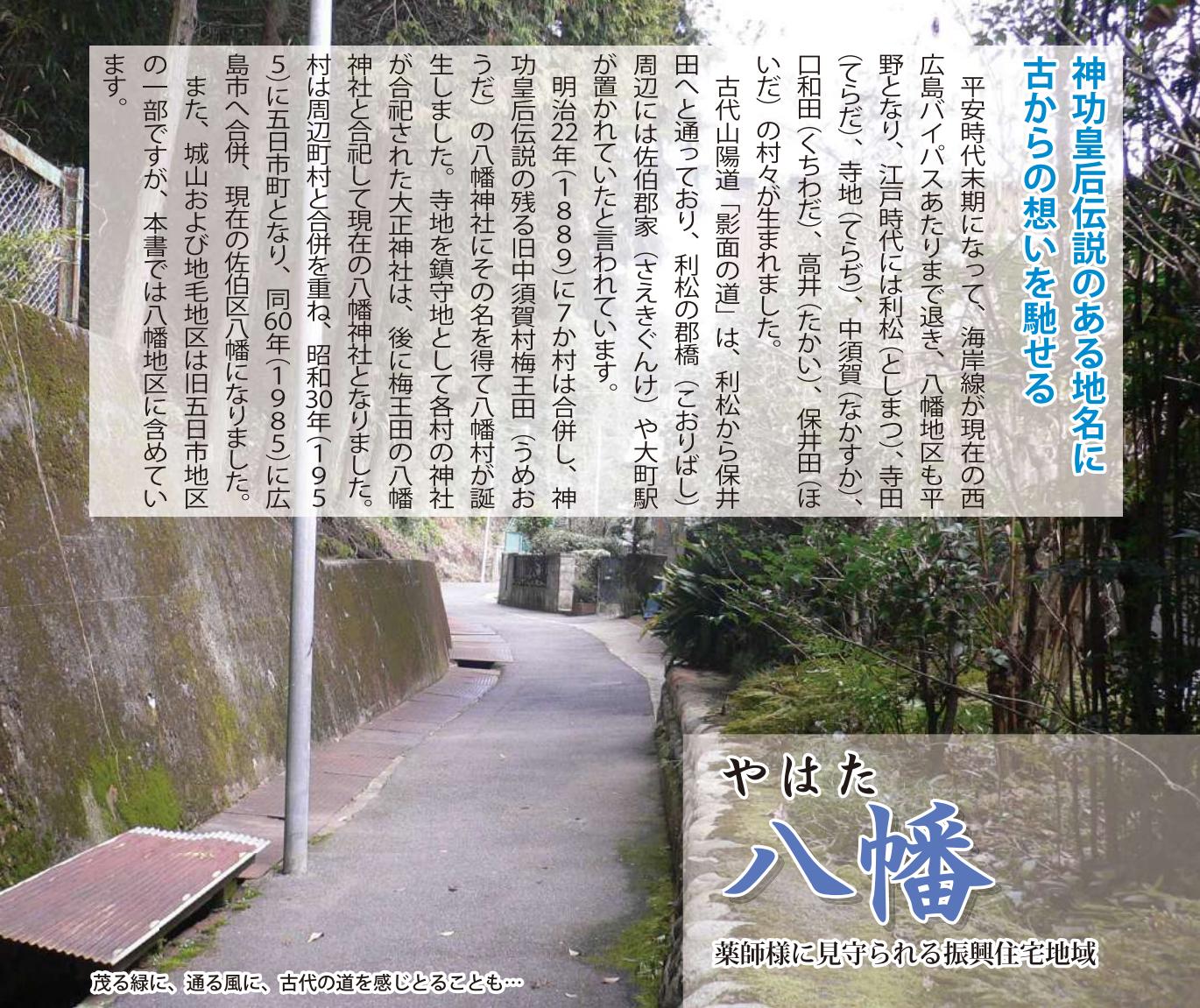
神功皇后伝説のある地名に 古からの想いを馳せる

平安時代末期になつて、海岸線が現在の西広島バイパスあたりまで退き、八幡地区も平野となり、江戸時代には利松（としまつ）、寺田（てらだ）、寺地（てらぢ）、中須賀（なかすか）、口和田（くちわだ）、高井（たかい）、保井田（ほいだ）の村々が生まれました。

古代山陽道「影面の道」は、利松から保井田へと通つており、利松の郡橋（こおりばし）周辺には佐伯郡家（さえぎぐんけ）や大町駅が置かれていたと言われています。

明治22年（1889）に7か村は合併し、神功皇后伝説の残る旧中須賀村梅王田（うめおうだ）の八幡神社にその名を得て八幡村が誕生しました。寺地を鎮守地として各村の神社が合祀された大正神社は、後に梅王田の八幡神社と合祀して現在の八幡神社となりました。村は周辺町村と合併を重ね、昭和30年（1955）に五日市町となり、同60年（1985）に広島市へ合併、現在の佐伯区八幡になりました。

また、城山および地毛地区は旧五日市地区の一部ですが、本書では八幡地区に含めています。



古代の八幡地区はほとんどが湿地でしたので「影面の道」は寺田と保井田の山裾に沿つて通っていました。利松周辺には『延喜式』に載る大町駅が、廿日市市平良には種籠（へら）駅が置かれ、両駅を結ぶ位置にあたっています。現在は八幡が丘や薬師が丘や折出など開発により、当時の面影が無くなっている所もあります。

八幡地区の散策コースは、三和橋から寺田の山裾を通り、八幡が丘と薬師が丘東麓の県道を経て、保井田川に沿つて城山へ向かって南下しています。

コースは、八幡川の三和橋から八幡公民館までがDコース、八幡公民館から城山までがEコースです。両コースとも主な見所は寺社や城跡などです。中でもEコースの正楽寺は、現在も病気平癒と縁結びを願い、地元の人から篤い信仰を集めている古刹です。

約 3.15km
約 2 時間





4 深入城跡

「影面の道」を眼下に臨む
古代の要所

鎌倉時代初期に寺田地区西方の山入寺山頂にあり、当時は深入城と呼ばれていましたが、城主の名は不明です。



2 山入寺跡

寺の名残りが今の地名に

鎌倉時代、この地に山入寺があったと言われ、旧寺田村は寺領の地の名残で、山入寺の地名が残っています。



1 寺田井手

(五日市用水路取水口)

五日市の田畠へ送る
水の取り入れ口

江戸時代の初めに八幡川が付け替えられ、五日市地区は水不足となったため、旧寺田村に井出(取水口)を造り、旧五日市村へ用水路を通しました。



3 宝神社跡

二つの社が合祀した
地域の氏神

建保年間に深入城主が建立した八幡宮へ、応永32年(1425)に火明神を勧請し、文明元年(1469)に寺田村の氏神社としました。延徳3年(1491)に社殿を建て神家正平に守らせしていました。深入城跡の清水口という所にあった清水大明神と合わせ社名を宝神社としました。その後、福島正則が神領地を没収、修理が行えず荒れ果てていました。享保元年に山入寺彦四郎が深入寺城跡東山麓の敷地を寄進し、社殿を移し建立しました。明治41年(1908)に明治政府の一村一社の趣旨に従い、現八幡神社に合祀されました。

やはたがわしうぞう 八幡川酒造

極楽寺から流れ出る名水で
造られる芳醇な味わい



八幡川酒造の創業は文政年間で、保井田の児玉酒造と中地の池田酒造が合併したものです。極楽寺山麓の軟水できれいな伏流水が使われています。

現在、佐伯区内で唯一の醸造蔵で、銘酒「八幡川」は全国的に有名です。

(34ページで「蔵開き」を紹介)

わたしたちのオススメ

Dコース深入城跡東麓を南北に通る「影面の道」は、今も古代の雰囲気を醸し出しています。

Eコースの「正楽寺(保井田薬師堂)」に登れば、八幡地区のパノラマが手に取るように眺められます。
(やはた歴史探訪くらぶ)



**Dコース 山裾に沿って歩く
地域を南北に縦走する道**

八幡川に架かる三和橋(南詰)から、八幡公民館までのコースです。三和橋から南に進み、山陽新幹線ガード下より約200mで「影面の道」は途切れています。道は昭和30年代に県道湯来線が出来るまでは、「沼田郡往来ぬまたぐんおづらい」と呼ばれていた旧県道より西側では、唯一の南北道路でした。

コースに沿う史跡には、山入寺跡、宝神社跡、深入城跡、八幡神社が、産業としては八幡川酒造、水利としては寺田井手(五日市用水路取水口)があります。八幡公民館は旧八幡村役場の跡地にあり、村役場跡の旧県道は近世の沼田郡往来で、路線バスが通り商店街となり、八幡地区の中心地として賑わいました。



5 正樂寺(保井田薬師堂)

行基作と伝わる薬師如来坐像
今も信仰厚い古刹

正樂寺は平安時代初期に弘法大師が、薬師が丘一丁目に寺堂を建立しましたが、明治12年(1879)に現在の場所に移転されました。本尊の薬師如来座像は行基の作と言われます。行基が東大寺大仏造営の大勧進のため全国を巡回する途中で厳島へ向かう船から、極楽寺山の山上に瑞光を見つけ極楽寺山に登ると、光を放つ大杉と分かり、その根元で造ったと伝えられています。毎年2月11日には薬師縁日が開かれ、古くからの信仰が絶えません。

(34ページで「保井田薬師堂の縁日」を紹介)



6 正樂寺跡

開祖は弘法大師
近代になって移転

薬師が丘一丁目にある跡地には、石碑が建てられています。

8 大歳神社跡(保井田)

石積みに当時の面影を見ることができます

保安年間に茶臼山に祀られていたものを、文政年間に旧保井田村の氏神として宮の前の地に移されました。現在は、八幡神社に合祀されています。

7 竈神社跡

村人の生活に不可欠な竈(かまど)を守る神様

保井田の大歳神社境内にあって摂社でした。祭神は竈(台所)を守る火伏の神で、村人の信仰に支えられました。現在は、八幡神社に合祀されています。



9 池田城跡

中世の武将が広大な五日市平野を開く

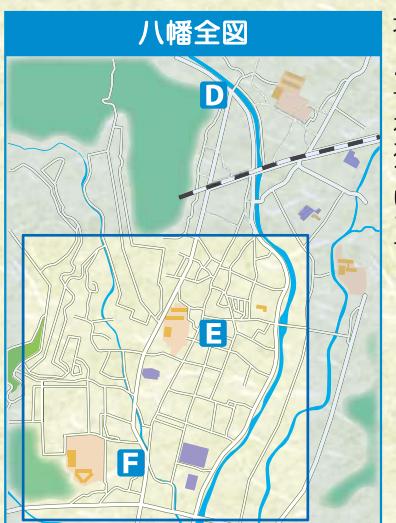
摂津国から楠木正成の孫とも伝える池田教生が移住し、14世紀中～後期に築城され、城山は古代山陽道を監視する軍事上の重要な拠点でした。

やはたじんじゃ 八幡神社

季節を通じて信仰される地元の氏神

大正4年(1915)、旧八幡村の8社を合祀し大正神社となり、昭和3年に中須賀の八幡神社を合祀し八幡神社となりました。

(33ページで「秋祭り」を紹介)



Eコース 地元の人たちから愛された寺社や山城跡を行く

八幡公民館から、池田城跡の東南山麓、城山バス停までのコースです。池田城跡までは、八幡が丘、薬師が丘、折出の造成と眞道湯來線の新設により、当時の面影はほとんど残っていません。池田城跡西北には、向山と茶臼山が連なり、中世には山城がありました。現在茶臼山には地元の方が置かれた多くの石碑があり、桜が植えられ春には綺麗です。頂上より八幡地区全体から石内地区に至るまで展望でき、山城が築かれた重要ながうがえます。池田城跡北西面の谷には扇免(おうぎめん)、保井田川河口には笛免(ふえのめん)などの地名が残り、嚴島神社に奉仕した人々が暮らした地とも言われています。



観音地区の総氏神様

かんのんじんじゃ・かんのんしだれ

観音神社・観音しだれ

延喜3年(903)に伊勢の国から勧請したと言われている歴史のある神社です。明治時代に國の神社合併の勧奨に従い観音地区の各神社を合祀し、四宝神社、高山神社を設立。その後、昭和34年(1959)に四宝神社と高山神社を合祀し、観音神社と改称して現在に至ります。(34ページで「秋季大祭の宵宮祭」を紹介)

境内にある桜の樹（観音しだれ）は、鎮座1100年(平成14年)の記念に京都の円山公園にある「祇園しだれ」の種から採芽された珍しい桜で、京都の桜守の十六代佐野藤右衛門氏によりご神木として植えられた由緒ある名木です。



古くから仏教が広まり 観音様に見守られる町

極楽寺山の南東裾野に開ける観音地区は、明治22年(1889)に倉重(くらしげ)、千同(せんどう)、坪井(つぼい)、三宅(みやけ)、屋代(やしろ)、佐方(さかた)の6か村が合併し、極楽寺のご本尊「千手觀音」の名から觀音村と名付けられました。

気候・風土に恵まれ、縄文の昔から人々が住み、先人は棚田を造り稻作に励んできました。しかし、水不足にたびたび苦しめられ、争いもあつたとも言われており、このため、溜池が多く造られ、昭和の初期までは雨乞いが行われていました。

西国一の寺院

また、この地区には「影面の道」が通っています。このことや、天平3年(731)に行基が極楽寺を開山、後に西国一と言われた圓明寺との末寺が次々に創建されたことなどから、当時は多くの旅人や寺社の参拝者がこの地区を往来していたようです。このような歴史的背景により、この地区には古墳、寺、神社、山城跡など多くの史跡が残っています。

当時の面影が色濃く残る道 寺社や史跡など見どころ多数

観音地区を通る「影面の道」は、時代の変遷により3ルート(山手・中の道・下手)があります。今回紹介する散策コースは、現在でも安全に通行できる当時の道が多く残り、コース沿いに多くの史跡などが点在することと、休憩やトイレ利用が可能な公園などが周辺に設置されているなどを考慮して、中の道を中心に紹介しています。

瀬戸内の景観美を楽しむ道

このコースは、東觀音台団地入口の北側(倉重一丁目)付近を出発点として、西広島バイパスに平行して南下。西広島バイパスの道路下を横切り、広島工業大学(三宅二丁目)付近を終着としています。比較的歩きやすく、12か所の史跡などを紹介するスポットがあり、五日市市街地や瀬戸の島々などの美しい景色も楽しめます。

約 4.8km

約 1時間 36分



1 ゆづひこじんじゃ 湯津彦神社

木陰にひっそりたたずむ社は「二宮さん」

神社に掲げられている扁額(へんがく)は一宮大明神となっていますが、この付近では「二宮さん」と呼ばれ親しまれています。祭神は天湯津彦命。

※個人宅の敷地内を通りますので、参拝の際には家主の許可をお願いします。

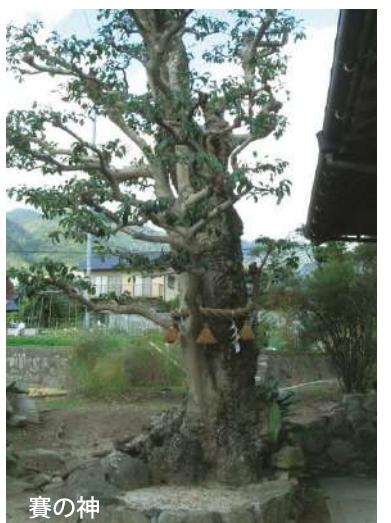


2 さいのかみ 賽の神

神様を取り込んだ大木
旅の安全を祈願

芸藩通志の絵図に「サイシン」と記され、「賽の神」を祀った小祠がありました。現在は、そばにあったクロガネモチの樹が大きく育ち、長い年月の末に小祠を破壊、ご神体の石を根元が包み込んだので樹自体にしめ縄をかけ「賽の神」を祀っています。影面の道のそばにあり、当時は多くの人が参拝し、旅人たちが旅の安全を祈つたと思われます。

※個人宅の敷地内にありますので、参拝の際には家主の許可をお願いします。



3 しょうらくじ 正樂寺

本堂入り口の額は
山津波被害の古木から

延暦17年(798)、上地宗西が出家して
弘法大師の弟子となり、十一面觀音菩
薩像を授けられて創建しました。

4 たかやまじんじゃあと 高山神社跡

今は公園など住民の憩いの場
社殿は移築され觀音神社へ

昭和34年(1959)、坪井にある觀音神社へ合祀され、今は石碑があるだけとなっています。速谷神社(廿日市市)の祭神である安芸津彦命(あきつひこのみこと)を祀っていました。



「城山」バス停

八幡へ

Fコース

F 「城山」バス停

約 700m・約 14 分

湯津彦神社

約 300m・約 6 分

賽の神

約 400m・約 8 分

正樂寺

約 100m・約 2 分

高山神社跡

観音台東第4公園

歩く距離 約 1.5 km

歩く時間 約 30 分

Fコース

山あり川あり海ありの好立地
古墳や遺跡など多数出土

この地区は旧倉重村と言い、旧八幡村との境界地で広島市植物公園があります。極楽寺山から流れ出る倉重川に沿った裾野に開け、多くの古墳が発掘されています。また、戦国時代には月見城があり、城主の居館、池田屋敷が高山神社に隣接していたことから、多くの兵士もこの辺りを往来していましたと思われます。なお、湯津彦神社は個人宅の庭を通行する際には一言声をかけるなどの配慮をお願いします。休憩には、瀬戸の島々が見渡せる高山神社跡に隣接する公園がお勧めです。



5 四宝神社跡と坪井古墳の石

**かつての大社は
今は石碑がひっそりと建つ**

明治43年(1910)、観音地区各村の氏神6社をこの地にまとめ四宝神社としました。その後、観音神社に合祀され、現在は石碑が建てられています。(写真右)



大正年間の四宝神社境内地拡張の際に坪井古墳が見つかり、多数の須恵器と横穴式石室が発掘されました。工事のため破壊。地域では、そばを流れる小川の蓋になっている石材が石棺の一部ではないかと言われています。(写真左)



7 お茶堂・井戸跡

**古代の旅人が旅の疲れを癒すは
眼前に広がる至福の瀬戸の風景**

長福寺前の細い道が「影面の道」と言われています。その道の山側に茶堂(茶店)があったと言われ、今もその井戸が残っています。



6 坪井将監の力石

怪力自慢の武将が抱えて持ってきた巨石

将監(じょうげん)は坪井の地に生まれ、厳島合戦で毛利方として戦った武将。後に善正寺の僧。怪力で名高く、極楽寺山の参道に横たわり通行の妨げとなっていた大きな石を抱え、約2kmの坂道を下り自宅の門前に置いたという説話が残されています。これが現在ここに在る力石で、その重さはおよそ240kg。



8 長福寺

**長い間、無住寺だったが
多くの人の力で再興**

慶長7年(1602)極楽寺の下寺として、僧・宗源が創建しました。

小学校の前身

善正寺

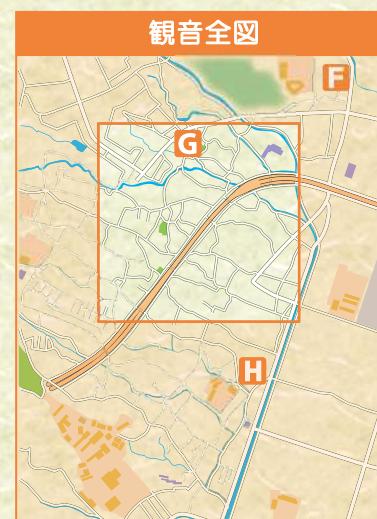
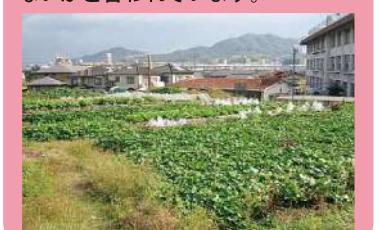
元亀元年(1570)力持ちで名高い坪井将監の父である因幡が創建。学問寺であり、嘉永6年(1853)第14代住職の強縁は子弟を養成する目的で、自坊の側に善正学舎という学寮を建てました。学寮は次第に寺小屋を兼ね、明治に入り学制が敷かれると善正舎となり、小学校へと発展しました。



**古代山陽道「影面の道」の
駅館跡かも…**

中垣内遺跡

この地から奈良・平安時代の軒丸瓦、軒平瓦、土器が出土。これらの遺物や遺構から、影面の道の駅館跡ではないかと言われています。(31ページ)

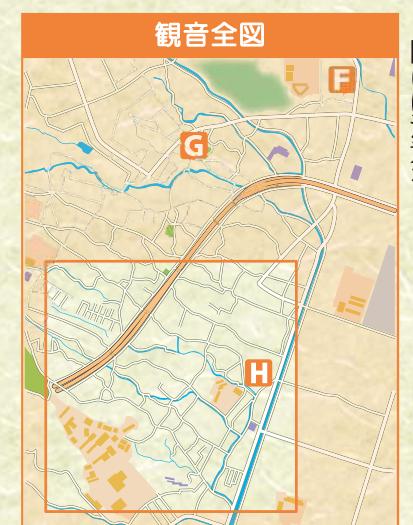


Gコース 棚田を眼前に瀬戸内海を望む
旧坪井村で、極楽寺山のなだらかな裾野に位置しています。昔は、一面に何段もの棚田が広がり、東には瀬戸内海の素晴らしい景観が一望できましたが、昭和40年から50年代にかけて、西広島バイパスの建設や宅地開発などにより昔の面影は消えつつあります。「影面の道」の傍らにある「お茶堂・井戸跡」は、旅人がこの茶店で一休みしてお茶をすりながら、爽やかなそよ風がふく周辺の棚田を背に、視線の先に広がる瀬戸内海の穏やかな景色を眺め、旅の疲れを癒したでしょう。

Gコース 地名は大和朝廷の直轄地から今は学生の街として賑う

旧三宅村で、地名の由来は古代皇領の屯倉（みやけ）からきたと言われ、大和朝廷時代に安芸の国の在庁官人として活躍した田所氏の屋敷跡があります。また、七堂伽藍の圓明寺が創建され、当時は多くの信者が参り、にぎわっていたと伝えられています。

「源範頼の五輪塔」一帯は御曹子（源の子息山）と言われ、源範頼を祀った蒲社（現在は取り壊されている）があり、お祭りには廿日市芸者衆が着飾ってお参りする姿が大正初期頃まで見られたそうです。現在は広島工業大学が誘致され、多くの学生が行き交う活気に満ちた地区に。バス通りは交通量が多いので、歩く際には注意を！



9 圓明寺

えんみょうじ
災害と時代の波にほんろうされたかつては西国随一の寺院

弘法大師が極楽寺に留録（るしゃく：一時滞在）された折、國家安穩を祈願するため創建。かつては七堂伽藍を整え、末寺15坊を持つ西国一の寺院であったと言われています。天正15年（1587）火事で焼け、慶長3年（1598）に毛利輝元により再建、後に福島正則の「慶長検地」で寺領が没収されると次第に下降し、無住の寺となり廃寺に至りました。しかし、明治6年（1873）に圓明寺再興を高野山当局に訴願、許可されて再建を果たしました。

←本尊の如意輪觀世音菩薩半跏像

わたしのオススメ

圓明寺のお堂に安置されているご本尊の如意輪觀世音菩薩半跏像は、室町時代末期から桃山時代頃の作と考えられているそうです。穏やかな顔立ちできらびやかな宝冠や胸飾りを身につけており、全体的に華やかな印象を受ける仏像で、昭和60年に広島市の重要有形文化財に指定されています。（清水正光）

10 仁助法親王宝篋印塔

にんよほっしんのうほうきょういんとう
三宅の風景美に魅せられた法親王が眠る地

任助法親王（1525生～1584没。ニンニヨは任助と書くが、石碑には仁助）の墓で高さが3.75m。15歳で出家し、晩年、九州への旅の途中に宮島の大聖院に立ち寄り、西方院で亡くなりました。地域では、三宅の美しい風景を好み、遺言により圓明寺の境内にご陵墓を建てたと伝わっています。

※JR宮島口駅の西側踏切近くにも同様のご陵墓があるが、現在ではそれが正しいとされています。

仁助法親王宝篋印塔



11 武内神社跡

たけうちじんじゃあと
今も地域の人人が手入れする村の氏神様

三宅村の氏神で、明治43年（1910）に坪井の四宝神社へ合祀、今は神社跡地に石碑が建っています。

源範頼の五輪塔



12 源範頼の五輪塔

みなものよりのりのりのりんとう
苦惱の鎌倉戦国武将終焉の地伝説

源頼朝の弟の範頼は伊豆で兄・頼朝に殺されました。この地方では、頼朝から逃れ瀬戸内海を渡り九州へ向かう途中、この辺りの海で亡くなり、後に五輪塔がこの地に建てられたと伝わっています。養護老人ホーム「喜生園」の北側にうっすらと苔むした立派な五輪塔があります。五つの石は、地・水・火・風・空でなり、各々四角形・三角形・半月形・団形で表しています。この塔は、火・風の部が一つの石で造られています。

地域の行事紹介

それぞれの地域で行われている伝統的な行事を紹介します。地域の特色ある行事は、季節の風物詩になっています。

内白山八幡神社 秋祭り



多くの参拝客で賑わいます

石内とんど

正月あけに行われています。田の中に多くの竹を組み、そこに正月のしめ飾りや門松、書初めを持ち寄って年男、年女が点火します。書初めは焼いたものが空高くあがると字がうまくなると言っています。鏡餅を竹に挟んで焼いて食べたりして、無病息災を祈る行事です。



見上げるほどに組んだ竹が燃え上がる様は壮観です

八幡神社の秋祭り



勇壮な神輿は迫力満点

迫力ある舞は、観る人を魅了します

高井神楽団 神楽奉納



八幡神社の秋祭りで奉納される神楽は、「高井神楽団」によるものです。

この神楽団は、約160年前から受け継がれており、歴史と伝統のある神楽団です。現在では、県内外の神社での奉納や、中国大連での公演など活動の場を広げています。

音觀音神社秋季大祭 の宵宮祭

観音神社では、例年10月の第2日曜日に行われる秋季大祭の前夜（土曜日）に宵宮祭（よいみやさい）があり、観音神社の神楽保存会、花火保存会による神楽が演じられ、神楽を盛り上げる吹上げ花火が打ち上げられます。いずれも約250年以前の江戸時代中期よりこの地に伝わる伝統文化です。夜店もあります。

賑やかなお祭りです。



縁日では平安を願う鐘の音が響きます

八幡保井田薬師堂の 縁日

保井田薬師堂の縁日はかつて八日薬師として近在にまで知られた祭りで、病気平癒や縁結びを願い2月8日に開かれました。参道沿いを埋める屋台で人々はこそつて薬師飴を貰い求め、夜半まで参詣の列が続いた賑わいは見られなくなりました。現在



地元だけでなく遠方から多くの日本酒ファンが来訪

八幡八幡川酒造の 蔵開き

八幡川酒造では毎年3月の最終日曜日に、新酒の蔵開きが行われます。酒蔵は八幡3丁目にあり、高さ25mの煙突が目印です。ささ酒の自由飲酒、有料試飲や各種食品の販売もあり、酒蔵の見学もできます。蔵開きはこれまでに20回を重ね、現在は千人もの人々が遠方からも来場し蔵内は賑わいを見せます。



吹上げ花火に湧き上がる歓声



音觀音神社秋季大祭 の宵宮祭

観音神社では、例年10月の第2日曜日に行われる秋季大祭の前夜（土曜日）に宵宮祭（よいみやさい）があり、観音神社の神楽保存会、花火保存会による神楽が演じられ、神楽を盛り上げる吹上げ花火が打ち上げられます。いずれも約250年以前の江戸時代中期よりこの地に伝わる伝統文化です。夜店もあります。

賑やかなお祭りです。



公民館ガイド

「影面の道」散策の際には、お近くの公民館をご利用ください。
本書は、下記の公民館6館による共同制作です。

開館時間／8:30～22:00

受付時間／8:30～17:15（ただし、木・金曜日は8:30～21:00）

休館日／毎週火曜日

国民の祝日（日曜日、火曜日の場合はその直後の休日でない日）

平和記念日（8月6日）

年末年始（12月29日～1月3日）

ホームページ／www.cf.city.hiroshima.jp/itukaichi-k/



つぼいこうみんかん
坪井公民館

広島市佐伯区坪井 1-32-10

☎082-921-0812

バス：「坪井公民館」下車徒歩1分

駐車場：15台分



やはたこうみんかん
八幡公民館

広島市佐伯区八幡 3-23-22

☎082-928-0207

バス：「保井田」下車徒歩3分

駐車場：12台分



いしうちこうみんかん
石内公民館

広島市佐伯区五日市町石内 3289-1

☎082-941-0120

バス：「石内学校」下車徒歩2分

駐車場：31台分



かんのんだいこうみんかん
観音台公民館

広島市佐伯区観音台 3-16-5

☎082-921-4762

バス：「東観音台中央」下車徒歩約4分

「五日市高校」下車徒歩約2分

駐車場：12台分



やはたひがしこうみんかん
八幡東公民館

広島市佐伯区八幡東 2-6-19

☎082-927-4543

バス：「中地上」下車徒歩5分

駐車場：11台分



としまつけこうみんかん
利松公民館

広島市佐伯区利松 1-18-15

☎082-928-8687

バス：「八幡東小学校」下車徒歩3分

駐車場：7台分

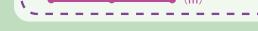
古代山陽道 影面(かげとも)の道

～アプローチ・ガイド～

影面の道散策コース

影面の道

0 500 1000 (m)



石内公民館
觀音台公民館
八幡東公民館
八幡公民館
坪井公民館

利松公民館
八幡公民館
八幡東公民館
八幡公民館
坪井公民館

東観音台中央
五日市駅
佐伯区役所
五日市駅北口
五日市駅南口

東観音台入口
五日市高校
五日市駅
佐伯区役所
五日市駅北口
五日市駅南口

●起点となるスポットには、公共の駐車施設はありません。公共交通などをご利用ください。
●起点となるスポットや公民館最寄りのバス停と路線図です。主に五日市駅を発着するバス路線（広電バス）を示しています。
●バスは、曜日によって運行時間が変わります。事前にご確認ください。

バス路線図
(広電バス)



石内・利松

八幡

観音

出展

広島市の文化財第50集 古路・古道調査報告

【広島市教育委員会（財）広島市歴史科学教育事業団】

五日市町誌（1965）【五日市町役場】

五日市町誌（上・中・下）【五日市町役場】

完全踏査 続古代の道 山陰道・山陽道・南海道・西海道

【吉川弘文館】

やはた歴史散策地図【広島市佐伯区役所・八幡公民館】

いしうち年表体郷土史作成委員会・石内公民館】

ふるさとめぐり【辰野誠次】

石内郷土史【石内公民館】

五日市観音小学校創立百周年記念実行委員会】

五日市観音・五日市中央「わがまち大辞典」

【広島市佐伯区役所・坪井公民館・五日市中央公民館】

ふるさとかんのん村の昔をたずねて

（五日市観音ウォーキングマップ）【広島市佐伯区役所・坪井公民館】

五日市観音「地名と伝説」【ふるさと講座（昭和62年10月）】

藝藩通志第二巻【芸備郷土誌刊行会】

聞法お散歩マップ【浄土真宗本願寺派安芸教区佐伯東組広報部】

日本歴史地名大系35【平凡社】

協力

内谷新太郎
岡島義明
加古川照子
上土井博司

田中孝雄
古元隆生
道添富造

田島裕子
服部日出夫
平田利昭
船本祐司
船本秀子
吉野仁美

恵木文江
岡本啓子
齊藤純一
貞廣昌見
清水正光
福田稔
松本共榮

佐伯俊治
佐々木卓也
蛇蝮良峰
田口成二
田島裕子
服部日出夫
平田利昭
船本祐司
船本秀子
吉野仁美

岡島義明
加古川照子
上土井博司
田中孝雄
古元隆生
道添富造

恵木文江
岡本啓子
齊藤純一
貞廣昌見
清水正光
福田稔
松本共榮

図解 古代史【成美堂出版】

道1【武部健二】

いしうち探検講座「歴史編」「いしうち年表体郷土史

【いしうち年表体郷土史作成委員会・石内公民館】

完全踏査 続古代の道 山陰道・山陽道・南海道・西海道

【吉川弘文館】

やはた歴史散策地図【広島市佐伯区役所・八幡公民館】

いしうち年表体郷土史作成委員会・石内公民館】

ふるさとめぐり【辰野誠次】

石内郷土史【石内公民館】

五日市観音小学校創立百周年記念実行委員会】

五日市観音・五日市中央「わがまち大辞典」

【広島市佐伯区役所・坪井公民館・五日市中央公民館】

ふるさとかんのん村の昔をたずねて

（五日市観音ウォーキングマップ）【広島市佐伯区役所・坪井公民館】

五日市観音「地名と伝説」【ふるさと講座（昭和62年10月）】

藝藩通志第二巻【芸備郷土誌刊行会】

聞法お散歩マップ【浄土真宗本願寺派安芸教区佐伯東組広報部】

日本歴史地名大系35【平凡社】

古代山陽道 影面の道

佐伯区散策マップ

平成24年（2012年）11月 初版第1刷発行

企画制作／古代山陽道「影面の道」佐伯区散策マップ制作委員会

編集／杉田康之（すぎたや本舗）

題字／道添富造（石内）

発行／広島市佐伯区役所地域起こし推進課

（財）広島市未来都市創造財団

石内公民館・利松公民館・八幡東公民館
八幡公民館・観音台公民館・坪井公民館

佐伯区ふるさと文庫

はるか古の時に想いを馳せ

故郷に残る悠久の道を歩み行く

古代山陽道「影面の道」佐伯区散策マップ制作委員会
石内公民館・利松公民館・八幡東公民館・八幡公民館・観音台公民館・坪井公民館